

# 平成十六年度 駒澤短期大学仏教科彙報

\* 今回は原則として平成十五年度を主とする

教の歴史と教理を演習形式で概説。昨年度は「天台宗」「華嚴宗」の項を講読。インド・チベット仏教演習 木村 誠司 『中論』をインド選述の注釈書とともに読んだ。

仏教文学演習 石井 公成

平安時代の文学作品に対する仏教の影響について検討した。

日用經典概説 奥野 光賢

前期は仏教教理史を概説しながら主要な大乘經典に対する解説。後期は曹洞宗において日頃読誦している經典(教典)・語録等を概説。主として『修証義』、各種陀羅尼類を中心に扱った。

中国仏教史 奥野 光賢

中国仏教の形成過程を主として教理に力点をおいて概説。教科書として鎌田茂雄『新中国仏教史(大東出版社)』を使用。

日本仏教史 梶谷 憲昭

末木文美士『日本仏教史(新潮文庫)』を教科書とし、これを中心に、仏教伝来より近世初期までの日本仏教史の展開を概観した。

日本禅宗史 石井 公成

奈良時代の修禅から江戸時代までの禅を

平成十五年度 短大仏教科開講科目

基礎仏教学

木村 誠司

『般若心経』をテキストとし、前期は様々な方面から仏教の学習方法を学んだ。後期は空海の『般若心経秘鍵』を参照し、テキストを丁寧に読んだ。

禅学研究

奥野 光賢

禅学特有の用語の解説を中心としながら、慧能に至るまでの中国禅宗史を概説。その上で『六祖壇経』を講読して、禅思想の思想的意味について考察した。

木村 誠司

仏典研究

木村 誠司

近代のインド仏教学者の著作を批判的に講読した。

石井 公成

仏典研究

石井 公成

コンピュータ教場で検索機能を利用し、語法に注意して初期仏教の漢訳を講読。

仏典研究

梶谷 憲昭

源信『大乘対俱舍抄』の講読を、日本における仏教思想の展開を検討していくという大きな目標の一環としておこなっている。統講であるが、平成十五年度には、『界品』第九頌より第十七頌までの「対本頌弁義」を講読した。

仏教思想演習

梶谷 憲昭

この演習は、日本撰述の仏教文献の講読を通して仏教思想を説明せんとして開設されているものであるが、目下は、安然『真言宗教時義』を講読中である。平成十五年度は、第22、23、24問答の箇所のみを講読にすぎたが、所引の諸文献のことも思想的意味づけにより多くの時間をさくことができたと思う。

中国仏教演習

奥野 光賢

凝然『八宗綱要』をテキストとして、仏

概観。日本達磨宗に重点を置いた。

仏教と文化

奥野 光賢

前期は日常語に取り入れられた様々な仏教語を解説しながら、「仏教と文化」の問題にふれる。後期は中国において偽経が作成されるに至った背景を考察しながら、仏教が民衆に浸透していく過程を、『仏説孟蘭盆経』や『父母恩重経』等を講読しながら考察した。

外国語仏教演習

袴谷 憲昭

Sir Monier Monier-Williams, *Hinduism*, London/New York, 1901. を最初から講読した。

他学部開講科目

〔大学院〕

修士課程・仏教学特講

石井 公成

『古今集』、『伊勢物語』、『源氏物語』における仏教の影響を検討した。

〔仏教学部〕

日本仏教文化史

袴谷 憲昭

序 仏教東漸 半跏思惟像  
第一章 「玉虫厨子」と捨身供養

第二章 『往生要集』と地獄極楽

第三章 『一言芳談』と後世物語

第四章 『日本史』における仏教

第五章 『新論』の国体論と仏教

第六章 仏教西来 靖国問題考

もとより充分ではないが、ほぼ右のようなテーマについて講義した。『往生要集』

については、特に大文第四の「正修念仏」

を中心に「菩提心」重視の傾向を問題とした。『仏教西来』については、西来した

仏教の研究に関し、一九世紀のヨーロッパやアメリカの仏教がどのようなもので

あったかを概観した。

仏教特講

奥野 光賢

最初に如来蔵・仏性思想に対する研究史を主として高崎直道博士の研究を紹介しながら概説。概説終了後、『涅槃経』を講

読。

朝鮮仏教史

石井 公成

日本に残された資料を活用しつつ、三国対立時代から高麗朝に至る朝鮮仏教史について概説。

中国古典語初級

石井 公成

前半は文法を概説。後半は、語法に注意しつつ老・荘・易を中国の注釈によって

読む練習をした。

〔短期大学〕

仏教と人間（国文科前半）

奥野 光賢

松本史朗著『仏教への道』（東京書籍）を教科書として、仏教の基本的教義を概説しつつ、仏教の人間観について考察した。

仏教と人間（国文科後半）

木村 誠司

前期は仏教の基本的知識を学び、後期は井上円了『仏教活論』を講読した。

仏教と人間（英文科前半）

石井 公成

世界の主要な宗教、および、仏教の教理と歴史について概説。

仏教と人間（英文科後半）

袴谷 憲昭

Sir Monier Monier-Williams, *Buddhism, in its Connexion with Brahmanism and Hinduism, and its Contrast with Christianity*, New York, 1889, Lecture XVIII "Buddhism contrasted with Christianity" を講読しながら、仏教の基本思想、ないし、仏教と言われながら仏教の基本思想と異なってしまう我が国の通俗仏教の背景理論について説明した。

仏教と人間（放射線科）

木村 誠司

前期は仏教の基本的知識を学び、後期は清沢満之『精神主義』を講読した。

### 教員研究活動

石井 公成

〔論文〕

「心を探る文学 『源氏物語』の唯心思想」、『文学』二 三年七・八月号、岩波書店、二 三・七)

「禅宗に対する華嚴宗の対応 智儼・義相の場合」(『韓国仏教学SEMINAR』第九号、二〇〇三・八)

「アジア禅宗史という視点」(福井文雅編『東方学の新視点』、五曜書房、二 三・十)

「『源氏物語』における顔之推作品の利用」顔氏家訓と『冤魂志』、『王範妾』、『駒澤短期大学仏教論集』第九号、二 三・十)

「『源氏物語』における顔之推作品の利用」顔氏家訓と『冤魂志』、『王範妾』、『駒澤短期大学仏教論集』第九号、二 三・十)

二 三・十)

「『源氏物語』における顔之推作品の利用」顔氏家訓と『冤魂志』、『王範妾』、『駒澤短期大学仏教論集』第九号、二 三・十)

「『源氏物語』における顔之推作品の利用」顔氏家訓と『冤魂志』、『王範妾』、『駒澤短期大学仏教論集』第九号、二 三・十)

「『源氏物語』における顔之推作品の利用」顔氏家訓と『冤魂志』、『王範妾』、『駒澤短期大学仏教論集』第九号、二 三・十)

「『源氏物語』における顔之推作品の利用」顔氏家訓と『冤魂志』、『王範妾』、『駒澤短期大学仏教論集』第九号、二 三・十)

二 三・十)

「『源氏物語』における顔之推作品の利用」顔氏家訓と『冤魂志』、『王範妾』、『駒澤短期大学仏教論集』第九号、二 三・十)

宗と地論教学の影響」(『GBS実行委員会編』論集 東大寺の歴史と教学』、法蔵館、二 三・十二)

「『大乘起信論』の用語と語法の傾向」NGSMによる比較分析」(『印度学仏教学研究』第五十二巻一号、二〇〇三・十二)

「日本の初期禅宗研究最新動向」(林嶋宇訳)(『宗教研究』創刊号、中国人民大学宗教学理論研究所、二 四・二)

「『万葉集』の恋歌と仏教」(『駒澤大学仏教文学研究』第七号、二 四・三)

「『大乘起信論』の成立 文体の問題および『法集経』との類似を中心として」(井上克人編『大乘起信論』と法蔵教学の実証的研究」(科学研究費研究成果報告書[3410006]、二 四・三)

「『大乘起信論』の用語と語法の傾向」NGSMによる比較分析」(日本印度学仏教学会第五十四回学术大会、二 三年九月七日、仏教大学)

「仏教と近代の家族の諸問題 妾の処遇を手がかりとして」(『日本仏教学会二 三年度学术大会シンポジウム』、二 三年九月十二日、大正大学)

Dharmapala's Activities in Japan (Conference: Global Flows and the Restructuring of Asian Buddhism in an Age of Empire, 1004年 月二十一日、Duke University)

符谷 憲昭

〔著書〕

「『大乗起信論』の用語と語法の傾向」NGSMによる比較分析」(『日本印度学仏教学会第五十四回学术大会』、二 三年九月七日、仏教大学)

「『大乗起信論』の用語と語法の傾向」NGSMによる比較分析」(『日本印度学仏教学会第五十四回学术大会』、二 三年九月七日、仏教大学)

「『大乗起信論』の用語と語法の傾向」NGSMによる比較分析」(『日本印度学仏教学会第五十四回学术大会』、二 三年九月七日、仏教大学)

「山口瑞鳳博士のチベット語文語文法三部作」(『駒澤短期大学仏教論集』第

「山口瑞鳳博士のチベット語文語文法三部作」(『駒澤短期大学仏教論集』第

「山口瑞鳳博士のチベット語文語文法三部作」(『駒澤短期大学仏教論集』第

「山口瑞鳳博士のチベット語文語文法三部作」(『駒澤短期大学仏教論集』第

「山口瑞鳳博士のチベット語文語文法三部作」(『駒澤短期大学仏教論集』第

「山口瑞鳳博士のチベット語文語文法三部作」(『駒澤短期大学仏教論集』第

「山口瑞鳳博士のチベット語文語文法三部作」(『駒澤短期大学仏教論集』第

「山口瑞鳳博士のチベット語文語文法三部作」(『駒澤短期大学仏教論集』第

「山口瑞鳳博士のチベット語文語文法三部作」(『駒澤短期大学仏教論集』第

「山口瑞鳳博士のチベット語文語文法三部作」(『駒澤短期大学仏教論集』第

「山口瑞鳳博士のチベット語文語文法三部作」(『駒澤短期大学仏教論集』第

「山口瑞鳳博士のチベット語文語文法三部作」(『駒澤短期大学仏教論集』第

「山口瑞鳳博士のチベット語文語文法三部作」(『駒澤短期大学仏教論集』第

九号、二 三・十)

九日、於愛知学院大学)

講師 花園大学教授 佐々木関先生

木村 誠司

奥野 光賢

〔論文〕

〔論文〕

【訃報】

『中論』におけるsvabhāvaについて、  
〔駒澤短期大学仏教論集〕第九号、二  
三・十)

『無明』を転じて「明」となす」(駒澤  
短期大学仏教論集〕第九号、二 三・  
十)

非常勤講師の大西龍峯先生が、二 三  
年六月二日に急逝されました。長年の御  
買込に感謝し、御冥福をお祈りいたしま  
す。

「ツオンカバの自相説に関する一報告」  
〔駒澤短期大学研究紀要〕第三十二  
号、二 四・三)

「吉蔵撰『金光明経疏』の真偽問題」(駒  
澤短期大学研究紀要〕第三十二号、二  
四・三)

研究テーマ提出者(平成十六年度)

〔発表〕

〔出張〕

仏教科一年

『中論』におけるsvabhāvaについて、  
(日本印度学仏教学会第五十四回学術  
大会、二 三年九月六日、仏教大学)

日本印度学仏教学会第五十四回学術大会  
(二 三年九月六・七日、於京都・佛教  
大学)

佐々木佳子 「仏教と人間生活の関わり  
方」  
長谷川恵子 「小乗仏教の世界」  
金居 陽 「日本人の神社観」  
石井 章仁 「曹洞宗における社会福祉  
の思想と歴史的変遷について」

〔出張〕  
第十二回国際サンスクリット学会(二  
三年七月十三日 十八日、ヘルシンキ大  
学)

日本仏教学会平成十五年度学術大会(二  
三年九月十三・十四日、於大正大学)  
第二回ザ・グレート・ブッタシンポジウム  
(二 三年十二月二十日、於奈良県新  
公会堂)

舟山 睦男 「『般若心経』について」  
泉 敬山 「現代宗教事情の考察」  
飯田 勝洋 「現在生活慣習の内での仏  
教の教え」  
石籠 泰晃 「中国から日本への仏教伝  
来 『阿毘曇五法経』について」

角田 泰隆

〔在外研究〕

【公開講演会】

愛知学院大学大学院文学研究科

二 三年十一月十四日 午後六時

〔発表〕

演題 インド仏教史の新たな視点

「道元禅の核心」(愛知学院大学人間文  
化研究所研究会、二 三年十月二十

トは可能か

現代仏教学にパラダイムシフ

清水 秀男 「仏教における平和思想と現代」

大滝 雅宜 「宗教と教育」

仏教科二年

岩間 太郎 「『正法眼蔵』、現成公案」

試論

上條 美和 「鎌倉仏教 親鸞の『教行信証』について」

小田 雅義 「仏性とは何か」

新谷 英俊 「曹洞宗について」

佐野間希崇 「方便力について」

松本 良子 「釈尊の伝記」

柴田 達雄 「輪廻と六道について」

武田 良典 「曹洞宗について」

田中 慈仁 「現代の人々と仏教の關係」

田村 和徳 「道元の生涯」

浅井 康博 「仏教とキリスト教の比較

モニエル・ウィリアムズ、ケーラ

ス、マックス・ミュラー」

齋藤 宏之 「各宗派の葬儀の見解と比較」

較

吉成 宏道 「大乘愚禪について」

腰山 拓道 「道元禪と現代社会」

渡邊 正文 「仏教と科学」

小林 祥一 「江戸時代の信者獲得争い」

永島 昌典 「『維摩経』、不二法門」の考察」

兩宮 匠人 「人々が宗教を信仰する意義」

吉谷 裕美 「日本人の死生観を考える

鈴木大拙の著作を通して」

向 英信 「『維摩経』、維摩の一黙」について」

藤田三恵子 「『法句経』の世界」

加藤 正和 「石原莞爾と恒久平和」

土井 菊普 「日本仏教とチベット仏教の違い」

上杉 憲廣 「日本における宗教の土着化」

平成十六年度短大仏教科在学生

仏教科一年

佐々木佳子 海老名孝和

長谷川恵子 小原 俊一

濱 弘親 金居 陽

石井 章仁 工藤 昌也

古屋 成敏 月村 修

小川 宜弘 舟山 睦男

岡部 良行 萩原 康平

相川 利正 泉 敬山

吉野まどか 飯田 勝洋

石龍 泰晃 中堀有希也

成田 紀久 清水 秀男

萩原 智 大滝 雅宣

岩間 太郎 上條 美和

村上 孝宗 新谷 英俊

佐野間希崇 岡部 道喜

松本 良子 柴田 達雄

村上 明宏 武田 良典

田中 慈仁 田村 和徳

浅井 康博 齋藤 宏之

井上 翔太 吉成 宏道

大塚 元晴 川原 光雄

腰山 拓道 小林 泰輝

渡邊 正文 小林 祥一

小田 雅義 永島 昌典

伊部 裕哉 兩宮 匠人

青柳 靖典 吉谷 裕美

向 英信 藤田三恵子

明石 智哉 熊谷 晃生

仏教科二年

加藤 正和 土井 菊普  
爾見 淳芳 石川 晶悟  
上杉 憲廣

諸係担当（平成十五年度）

短期大学仏教科主任 木村 誠司

学内諸係

全学教授会委員 木村 誠司

自己点検・評価委員 石井 公成

体育審議会委員 袴谷 憲昭

教育人事委員会委員 袴谷 憲昭

宗教教育運営委員会委員 奥野 光賢

情報システム委員会委員 石井 公成

図書館委員 石井 公成

図書選定委員 石井 公成

禅文化歴史博物館委員 奥野 光賢

学科内諸係

論集編集委員 石井 公成

会計・庶務 奥野 光賢